

令和４年度幼稚園学校評価（出雲市立今市幼稚園）

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価	評価	
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	○教育目標を具現化した学級経営案を立案し、月計画や週計画をもとに、子どもの育ちを捉えた保育実践に努め、定期的に反省・評価・改善を行った。	3	3	○教育目標をもとに学級目標を設定し、指導計画に基づいて、教材研究や環境の構成など見通しをもった保育の展開に努めていく。 ○定期的に反省、評価、改善を加え、よりよい学級経営を行っていく。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	○一人一人の幼児の興味や関心、情緒の安定、生活習慣、発達の姿を記録し、幼児の育ち、課題等を捉え、保育に取り組んだ。 ○個人懇談、年中児発達相談事業、あゆみを通して、保護者に成長の姿や願いを伝えと共に、子育ての喜びや悩み、不安に共感し、連携に努めた。	3	3	○一人一人の幼児の成長の過程、発達の課題を捉え、望ましい発達を促すための具体的な支援を通して、幼児理解を深めていく。 ○保護者に幼児の育ちの過程や成長の様子、課題や願いについて具体的な姿を通して知らせ、不安や悩みに寄り添いながら連携をしていく。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	○特別な支援を必要とする幼児の実態把握に努め、園全体で共通理解を図り、個の特性に応じた支援に努めている。 ○家庭との連携や、ケース会議、関係機関との連携を通して、幼児の特性の理解や支援のあり方、保護者の思いを共有し、支援に活かしている。	4	4	○特別な支援を要する幼児へのよりよい支援や保護者対応について、特別支援Coを中心に、職員で共通理解しながら進めていく。 ○保護者の思いや願いを受け止め、専門機関、関係機関、就学先との連携を図っていく。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	○人権同和教育を園生活の基底に据えて、幼児の人権意識の芽生えを培うと共に、職員自身が自分の言動を振り返ったり、一人一人が大切にされる園生活となるよう実践した。 ○人権同和教育研修に参加し、職員自身の人権感覚を磨くように努めた。	3	3	○幼児一人一人の人権を尊重し、互いに認め合い、育ち合えるよう、温かい集団作りをしていく。 ○教職員自身が自らの人権感覚を磨く努力すると共に、園内外の研修に積極的に出かけ、職員間で報告、伝達をしていく。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	○感染症対策を講じた行事の内容や方法の工夫に努め、幼児にとって成長の機会となるよう取り組んだ。行事後は反省を行い、来年度に向けての改善点を話し合った。 ○行事の意義や様子、取組の過程を写真掲示やたよりで保護者に知らせた。	4	4	○学年に応じた幼児の発達を促し、成長の機会となるよう、事後の反省や振り返りをし、工夫、改善をしていく。 ○行事のねらいや意義、幼児の取組の過程を保護者にたより掲載や写真提示、ボード等、具体的に伝え、理解を得る。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	○コロナ禍の中、今市小学校への見学や交流活動が実現でき、小学校への期待や憧れの気持ちが膨らむ体験となった。 ○今市小校区の園長校長会を通して、互いの園校の実態、活動、様子について情報交換し、保幼小の理解を深める場となっている。	3	3	○校区内の保幼小が交流活動や情報交換を通して、互いに意味のある連携となるよう、有効な方法や交流のあり方を工夫していく。 ○日ごろから機会をとらえて小学校生活の見学を実施し小学校への親しみや憧れ、期待感が膨らむようにする。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	○『だいきき今市～わくわくどきどき 体験しよう 表現しよう』のテーマで、自然体験、音楽表現、田んぼの活動、茶道・お菓子教室、読み聞かせ等を実施し、幼児の心身、情操面の発達を助長する体験活動となった。地域の人や自然に親しむことで、今市地域のよさを感じ、親しみをもつ機会になっている。	4	4	○保護者、地域に園生活の様子や子どもの育ちなどたよりやHPで発信したり、地域の行事や活動に積極的に参加したり取り入れたりしていく。 ○未就園児教室やひだまりの開催を通して、子育ての喜びや楽しさと共に不安や悩みなどを相談できる雰囲気作りや関係作りに努め、園児数の獲得につなげる。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	○昨年度までの研究をもとに新たな研究主題を設定し、保育実践の記録、育ちの読み取り、評価を加えて分析・考察をし、指導に活かした。 ○コロナ禍で研修の場や機会が減ったが、リモート研修やオンライン研修に参加し、自己研鑽に努めた。	3	3	○園内研修会を通して、幼児の発達や幼児理解、教材研究、保育内容の改善・工夫について実践を重ねていく。 ○一人一人が研修会に積極的に出かけ、自己研鑽に努めるとともに、事後の研修報告をし、職員への伝達をする。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	○職員の欠員等が生じたが、園務分掌の見直しを図り、職員間の協力体制の構築により、互いに声を掛け合い、確認し合いながら、協働して園務を遂行した。	3	3	○互いに助け合い、協力し合える職員集団となるよう、声を掛け合い、計画的に園務を遂行できるようにする。 ○管理職は、職員の心身の健康に留意し、明るく活気のある職場作りに努め、職員が意欲と責任をもって園務に取り組めるようにする。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	○感染症対策を徹底し、消毒、マスク着用、検温、手洗い、うがい、換気など予防に努め、幼児・職員の健康管理を行った。 ○安全指導年間計画に沿って、避難訓練(火災、地震、引き渡し、不審者、浸水)を行い、消防署の指導を受け、避難行動が身につくようにしている。	3	3	○健やかカードの取組を通して、生活リズムの定着、メディア接触の軽減など、心身ともに健康な生活を促していく。 ○時期に応じた保健指導や様々な状況を想定した避難訓練を計画的に実施し、園児の保健衛生、安全管理、職員の対応力を身につけていく。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	○毎月、職員で施設・設備の安全点検を行い、不具合が生じた場合は、早急な対応、修繕に努めている。1月には漏水を確認し、教育施設課、対応業者と連携を図り、対応をした。	3	3	○定期的に園舎や遊具の安全点検を実施し、不備な箇所を速やかに修繕を行う。施設の老朽化について必要な要望を継続していく。 ○保護者やおやじの会の協力を得て、園庭の環境整備や樹木剪定、遊具の塗装など適宜実施していく。

※評価基準　４：十分達成している　３：概ね達成している　２：改善を要する部分がある　１：大いに改善を要する